

2021年3月14日(日)朝10:10

降復活前第3、自由交歓会等

3月第2受難節第4共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**皆に仕え、主のしもべに徹せよ**(26～
28)

聖書:マタイ 20章17～28節

<口語訳>

新約聖書32～ 頁

マタイ 20章17～28節

<新共同訳>

新約聖書38～39頁

マタイ 20章17～28節

<新改訳第3版>

新約聖書40～41頁

マタイ 20章17～28節

<塚本訳>

新約聖書129～130頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日は、**マタイ20:17～28節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**皆に仕え、主のしもべに徹せよ(26～28)**」は、先週の「**地上の思いを天に繋げてくださる主(19～20)**」を受けて、第3回目の主の受難を弟子たちに予告し、語って下さいました。
- ⇒そして、野望を抱く弟子、ヤコブらに、「**一番上になりたい者は奴隷になれ**」と、主は、仰せになったのです。
- ⇒**永遠**の「**神の御子イエス・キリスト様**」は、人間を創造し、日々新しくできるお方なのに、主を無視したり、逆らったりする人々のために十字架にかかろうとしておられたのです。
- ⇒「**人の子(わたし)が来たのも仕えさせるためではない。仕えるため・いのちを与えるため**」と。

本論；

◇本日、**マタイ書20章17～28節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ20章17～28節**；使徒**マタイ**は、「皆に仕え、主のしもべに徹せよ(26～28)」と、「**地上の思いを天に繋げてくださる主**(19～20)」との主のみことばを通して、主自ら「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しておられます。

◇**マタイ20:17～28節**；塚本訳◆

受難の予告第三<1～19>

- 17 いよいよエルサレムへ(の道を)上り出される
とき、イエスはまた十二人(の弟子)だけをそばに呼んで、道々こう話された、
- 18 「さあ、いよいよわたし達はエルサレムへ上
るのだ。そして人の子(わたし)は(そこで)大
祭司連と聖書学者たちとに引き渡される。彼
らは死刑を宣告して
- 19 異教人に引き渡し、異教人はなぶり、鞭で
打ち、ついに十字架につけるのである。しか
し三日目に復活する。」

◆ゼベダイの子らの野心<20~28>

- 20 その時、ゼベダイの子(ヤコブとヨハネと)の母がその(二人の)子をつれてイエスの所に来て、ひざまずき、何かお願いしようとした。
- 21 彼女に言われた、「何の願いか。」彼女が言う、「(来ようとしている)あなたの御国で、この二人の子が一人はあなたの右に、一人は左に坐るよう御命令ください。」
- 22 イエスが答えられた、「あなた達は自分で何を願っているのか、わからずにいる。(ヤコブとヨハネに聞くが、)わたしが飲まねばならない(苦難の)杯を飲むことが出来るのか。」「出来ます」と二人がこたえる。
- 23 イエスは言われる、「いかにも、あなた達はわたしの杯を飲むにちがいない。しかしわたしの右と左の席、それはわたしが与えるのではなく、(あらかじめ)わたしの父上から定められた人々に与えられるのである。」
- 24 (ほかの)十人(の弟子)はこれを聞いて、二人の兄弟のことを憤慨した。
- 25 するとイエスは彼らを呼びよせて言われた、「あなた達が知っているように、世間では主権

者が人民を支配し、また(いわゆる)えらい人が権力をふるうのである。

26 あなた達の間では、そうであってはならない。あなた達の間では、えらくなりたい者は召使になれ。

27 一番上になりたいたい者は奴隷になれ。

28 人の子(わたし)が来たのも仕えさせるためではない。仕えるため、多くの人があがない金としてその命を与えるためである。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ20:17~19節**；「いよいよエルサレムへ(の道を)上り出されるとき、イエスはまた十二人(の弟子)だけをそばに呼んで、道々こう話された(17)」、「さあ、いよいよわたし達はエルサレムへ上るのだ。そして人の子(わたし)は(そこで)大祭司連と聖書学者たちとに引き渡される。彼らは死刑を宣告して(18)、異教人に引き渡し、異教人はなぶり、鞭で打ち、ついに十字架につけるのである。しかし三日目に復活する。」(19)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「**マタイ16:21~23**」と「**マタイ17:22~23**」に続けて、「**マタイ20:17~19**」で、

主の受難の予告をなされたのです。

⇒3回も、主が弟子たちに受難を予告されるということは、弟子たちはじめ、主の救いを求める人々には、欠かすことができない出来事であることを示めしておられます。

⇒私たちは、生れながらの罪人で、肉の思いと性質・性格から、悪魔・悪霊に支配され、善を行いと思いを持ちつつ、悪に引き込まれる者です。

⇒かろうじて、主を讃美し、祈り、礼拝し続けておられますのは、主の憐れみ・恵みと執り成しによるのです。

◇**マタイ20:20~28**；「その時、ゼベダイの子（ヤコブとヨハネと）の母がその（二人の）子をつれてイエスの所に来て、ひざまずき、何かお願いしようとした(20)」、「彼女に言われた、「何の願いか。」彼女が言う、「(来ようとしている)あなたの御国で、この二人の子が一人はあなたの右に、一人は左に坐るよう御命令ください。」(21)」、「イエスが答えられた、「あなた達は自分で何を願っているのか、わからずにいる。(ヤコブとヨハネに聞くが、)わたしが

飲まねばならない(苦難の)杯を飲むことが出来るのか。」「出来ます」と二人がこたえる(22)」「イエスは言われる、「いかにも、あなた達はわたしの杯を飲むにちがいない。しかしわたしの右と左の席、それはわたしが与えるのではなく、(あらかじめ)わたしの父上から定められた人々に与えられるのである。」(23)、「(ほかの)十人(の弟子)はこれを聞いて、二人の兄弟のことを憤慨した(24)」、「するとイエスは彼らを呼びよせて言われた、「あなた達が知っているように、世間では主権者が人民を支配し、また(いわゆる)えらい人が権力をふるうのである(25)」、「あなた達の間では、そうであってはならない。あなた達の間では、えらくなりたいた者は召使になれ(26)」、「一番上になりたいた者は奴隷になれ(27)」、「人の子(わたし)が来たのも仕えさせるためではない。仕えるため、多くの人のがない金としてその命を与えるためである(28)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「一番上になりたいた者は奴隷になれ」と、「**神と人に仕える**」ことが、いのちを捨てる大切なことと、言われます。

⇒主は、**神の愛子**であるのにもかかわらず、十字架の死を代価として、復活と栄光の御座を獲得して下さったのです。もともと、栄光をお持ちでしたのに、人となって、罪人に仕え、人の手によって、十字架を背負って下さったのです。

⇒ピリピ4:4~7;【口語訳】

4 あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。

5 あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。

6 何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。

7 そうすれば、人知ではどうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いを、キリスト・イエスにあって守るであろう。

⇒教会では、権力で人を支配、自分を偉い人と思う考えは、主の思いとは異なり、むしろ主が自ら示して下さったように、権威を与えられたからこそ、主の権威のもとに伏し、誰に対しても、主のしもべといひ振舞うのです。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日は、**マタイ20:17～28節**の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**皆に仕え、主のしもべに徹せよ(26～28)**」は、先週の「**地上の思いを天に繋げてくださる主(19～20)**」を受けて、第3回目の主の受難を弟子たちに予告し、語って下さいました。
- ⇒そして、野望を抱く弟子、ヤコブらに、「**一番上になりたい者は奴隷になれ**」と、主は、仰せになったのです。
- ⇒**永遠**の「**神の御子イエス・キリスト様**」は、人間を創造し、日々新しくできるお方なのに、主を無視したり、逆らったりする人々のために十字架にかかろうとしておられたのです。
- ⇒「**人の子(わたし)が来たのも仕えさせるため**

はない。仕えるため・いのちを与えるため」と。

⇒ローマ5:6～8;【口語訳】

- 6 わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは、時いたって、不信心な者たちのために死んで下さったのである。
- 7 正しい人のために死ぬ者は、ほとんどいないであろう。善人のためには、進んで死ぬ者もあるいはいるであろう。
- 8 しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。

⇒ピリピ2:3～12;【口語訳】

- 3 何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。
- 4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。
- 5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。
- 6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等

- しくあることを固守すべき事とは思わず、
- 7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、
 - 8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。
 - 9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。
 - 10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、
 - 11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。
 - 12 わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。
- ⇒ 極端に身を低くする余り、卑屈になってはなりません。
- ⇒ 益となる奉仕を志し、天の道を歩みたい。